

一橋日本史予想論述チェック表【古代から近現代 主な書物】

【問題】	【POINT】
「土佐日記」の著者と内容	●紀貫之●任地の土佐を船出して都に帰るまでの出来事を、作者を女性に仮託して仮名書きで記した、仮名文日記の最初●後続の日記文学確立の端緒
「梁塵秘抄」の作者と内容を説明せよ。	●後白河法皇●貴族間で流行した今様など雑芸の歌を集めた。
「中右記」の作者と内容を説明せよ。	●藤原宗忠●平安時代後期の日記で、朝廷の諸行事、政務を克明に筆録しているため、後世、貴族たちは競って彼の日記を学び、故実典礼の先例として引用
「平家物語」の内容を説明し、どのように人々に知れ渡ったのか説明せよ	●平安時代末、平清盛とその一門の興亡の歴史を描いた軍記物で、平曲とよばれる琵琶法師の語りによって文字が読めない人々にも広く親しまれた
「方丈記」の作者と内容を説明せよ	●鴨長明●仏教的無常観を基調に、大風・飢饉などの不安な世情や、日野山に閑居した方丈の庵での閑寂な生活を、簡明な和漢混交文で描く
「愚管抄」の著者とその内容と背景を説明せよ	●慈円●それまで合戦の起きたことのなかった京都を舞台にした保元の乱(「武者の世」の始まり)が起きたことで衰退していく貴族の運命と、武士が政争に使われたことによる武士の台頭を末法思想の影響を受けつつ、歴史は必然的な「道理」に基づき展開するという史観に立って、九条兼実の弟で天台座主も務めた慈円は叙述し、鎌倉幕府の成立を肯定した。そこには、九条家の公武協調策を擁護し、後鳥羽上皇の討幕計画を諫めようとする意図があった。
「十六夜日記」の作者と内容を説明せよ	●阿仏尼●実子の所領相続をめぐる訴訟のため京都から鎌倉へ下った際の日記
「二中歴」の内容を説明せよ	●鎌倉時代の百科事典であり、天文気象・有職故実・人名・物名などを列挙
「立正安国論」の作者と内容を説明せよ	●日蓮●当時の天変地異は、浄土教などの邪法によるとして排斥し、諸経、諸宗を『法華経』のもとに統一して正法を広めるべきことを主張
「催邪輪」の作者と内容を説明せよ	●明恵●華嚴宗の明恵が、法然の著『選択本願念仏集』を披読して、そこに大乘仏教の発菩提心の意義が欠けていることを非難し、その邪見を反駁するために著した ※貞慶も「興福寺奏上」で法然を非難
「歎異抄」の作者と内容を説明せよ	●唯円●親鸞死後に信徒たちの間に広まっていた異端を歎き、親鸞の伝えた真信に返そうとしてつづられた
「喫茶養生記」の作者と内容を説明せよ	●栄西●茶の製法や効能を説き、喫茶による諸病の治療法を述べ、健康管理の必要を主張し、源実朝に献上した
「興禅護国論」の作者と内容を説明せよ	●栄西●中国から臨済宗を受けて帰朝し、日本に初めて禅を広めたが、南都北嶺の諸宗から非難攻撃を受けたため、禅が一つの宗旨として独立することが、鎮護国家のためにも仏教のためにも必要であることを力説
「明月記」の作者と内容を説明せよ	●藤原定家●作歌活動、古典研究など、文化的記事に富み、故実典礼の記事も詳しく、政情、世相、風俗も

「建武年中行事」の作者と内容、及びその目的を説明せよ	●後醍醐天皇●朝廷で行われる1年間の恒例、臨時の行事の作法や装束などが記されている。和文で書かれていて、国語資料としても貴重であり、天皇親政の理想実現の一環として、建武の新政に際して旧儀の再興と朝権の復興を願ってつくった
「神皇正統記」の作者と内容を説明せよ	●北畠親房●全国的な統一政権としての幕府を開こうと目論む足利尊氏が立てた光明天皇側の北朝と、建武の新政からの引き続く天皇親政を行おうとする後醍醐天皇側の南朝間の抗争が続く中で書かれ、度会家行の説いた伊勢神道や朱子学の大義名分論の影響を受けつつ、南朝の正当性を主張
「梅松論」の内容	●北条氏の執権時代から南北朝の動乱を経て足利氏が天下を制するまでを、足利側の立場から述べる
「太平記」の内容とその語られ方	●鎌倉末期から南北朝中期までの約50年間の争乱を和漢混交文で描く●「太平記読み」として講釈され講談の祖となった
「難太平記」の作者と内容を説明せよ。	●今川了俊●今川氏の由緒と勲功を子孫に伝えようとして書かれ、応永の乱に際して、大内義弘と関東公方との連携を了俊がとりもった事情の弁明が詳しい
上記が、なぜ「難」であるのかも説明せよ	●「太平記」の記述の誤りを指摘しているため「難太平記」と命名
「職原抄」の作者と内容を説明せよ	●北畠親房●日本の官職制度について、由来・官位・唐名などに触れ、任官のための家格や慣例も解説
「元元集」の作者と内容を説明せよ	●北畠親房●日本の神道の起源を調査し、和漢の古典から資料を引用、分類して自説を加えたもの
「正平版論語」とは何か、説明せよ	●日本最古の「論語」の印刷本
「河海抄」の作者と内容を説明せよ	●四辻善成●「源氏物語」の初期の注釈書
「公事根源」の作者と内容を説明せよ	●一条兼良●朝廷の年中行事の起源や変遷を説明
「樵談治要」の作者と内容を説明せよ	●一条兼良●9代将軍の足利義尚の問いに答えた政治上の意見書で、率直な人物を守護に選任すべきこと、足軽の停止などが内容
「文明一統記」の作者と内容を説明せよ	●一条兼良。足利義尚の求めに応じて政治上の戒めを述べたもの●孝行、正直、慈悲、芸能をたしなむべきこと、政道を心にかけるべきことなど
「花鳥余情」の作者と内容を説明せよ	●一条兼良●「源氏物語」の注釈書で、四辻善成の「河海抄」の誤りを指摘・訂正
古今伝授とは何か、説明せよ	●「古今和歌集」の故実・解釈などの秘事を弟子に口承伝授すること。初めは東常縁から宗祇に伝えられた
「応安新式」の作者と内容を説明せよ	●二条良基●連歌の規則を集大成したもの
「閑吟集」の内容を説明せよ	●小歌・宴曲や民間の童謡などを収録し、庶民生活を知る好資料
「風姿花伝」の作者と内容を説明せよ	●世阿弥●父親阿弥の教えを体系化し子孫に伝えようとしたもので、世阿弥の芸術論の基本をなし、「花＝観客の感動」の概念を中心に展開
中世の教科書を4つ答えよ	●「庭訓往来」、「童子教」、「実語教」、「伊呂波歌」
「節用集」の刊行者および内容、歴史的意義を説明せよ	●饒頭屋宗二●いろは引きの国語辞書であり、当時としてはその簡便な点が実用的な書として一般の歓迎をうけ、明治時代の初期まで改編などがおこなわれるなど、長い生命をもつ

	ていた点で日本における辞書および文字教育の文化史の上で重要な位置
「医書大全」の国内での翻訳者(刊行者)とその内容を説明せよ	●阿佐井野宗瑞●医学の全分野が平易に説明されており、日本の医書刊行の最初
「梅花無尽蔵」の作者と内容を説明せよ	●禅僧の万里集九(応仁の乱後、太田道灌の招きで江戸に赴く)の詩文集
「看聞日記」の内容を説明せよ	●室町前期の政治・社会・文化など多方面についての好史料で、義教の強圧政治や嘉吉の変の経緯についても詳細
「善隣国宝記」の作者と内容を説明せよ	●瑞溪周鳳●外交資料および周鳳の外交批判を著わしている
「塵芥集」の内容とその性格を説明せよ	●伊達植宗が制定し、戦国家法のなかで最大の法典●形式は御成敗式目に倣い、他の分国法に比べ直接的に家臣の統制を目的とした家中法的性格は少なく、分国統治の裁判規範としての性格が濃厚、連座制の規定
「今川仮名目録」の内容とその性格を説明せよ	●室町幕府権力を背景とせず、今川氏自身の力量による制定・発効を強調し明示している点特徴的。武田氏の「甲州法度之次第」にも影響を与えた●私婚の禁止など
「甲州法度之次第」の内容と性格を説明せよ	●武田晴信(武田信玄)が制定した法典●喧嘩両成敗法、宗論の禁止など、戦国家法の特色とされる条文が多くみられ、「今川仮名目録」の強い影響下に成立
「六角氏式目」の内容と性格を説明せよ	●六角義治と父義賢の制定した分国法●売買法・訴訟手続法など民事規定が多く、畿内周辺の実情を反映
「蔭涼軒日記」の内容を説明せよ	●鹿苑院内の蔭涼軒主の日記●当時の禅宗の制度、文物、室町幕府の政情や武家社会の動静などを知るうえに不可欠の史料
「実悟記拾遺」の内容を説明せよ	●本願寺の記録の補遺で、加賀の一向一揆による富樫泰高の擁立と、「百姓ノ持タル国」の記事
「老松堂日本行録」の作者と内容を説明せよ	●宋希環●室町幕府からの使節派遣の回礼使として来日、当時の日本の社会情勢と各地の見聞を記録したもの。瀬戸内海の高松騒ぎや摂津での三毛作の記事
「耶蘇会士日本通信」の内容を説明せよ	●来日した宣教師たちがイエズス会員に送った書簡集●日本におけるキリスト教の初期布教の実態と、戦国期の日本社会の諸相を伝えたもの。
「聖教要録」の作者と内容を説明せよ	●山鹿素行●武士日用の道徳を主張して、儒教古典の朱子学的解釈を批判
「中朝事実」の作者と内容、及びそれが書かれた対外的背景	●山鹿素行●幕府が朝鮮や琉球に対する独自の華夷秩序を形成していたことや、中国での王朝交替に対する優越感を背景として、日本が特に中国よりも優れた国であることを、日本の皇統の継続性や対外からの侵略が無かったことなどの歴史に即して述べたもの
「経済録」および「経済録拾遺」の作者と内容を説明せよ	●太宰春台●政治論および経世論を發展させ、武士も商業を行い、専売制度によって利益を上げるべきだと主張
「大学或問」の作者と内容、この著作による作者への被害	●熊沢蕃山●重農主義的立場から武士土着論を中心とする俸禄世襲の廃止、参勤交代の緩和を主張し、幕政を批判した。そのため幕府に咎められ、下総古河に幽閉された。
「広益国産考」の作者と内容を説明せよ	●大蔵永常●各地の工芸作物の栽培を奨励し、特産品による農業の発展を促した
「農具便利論」の作者と内容を説明せよ	●大蔵永常●全国各地で使用される農具のうち、普及の価値があるものを、絵入りで説明

「綿圖要務」の作者と内容を説明せよ	●大蔵永常●綿の栽培全般について、自然条件や収穫高を左右する品種などを重視し、当時の日本の産地の中心地であった近畿などの特色にふれ、江戸時代綿作の農書のうち最高水準の内容
「草木六部耕種法」の作者と内容を説明せよ	●佐藤信淵●有用植物の利用対象を、根・幹・皮・葉・花・実の六部にわけ、それぞれに属する植物の栽培法を解説
江戸時代の三大農学者を記せ	●宮崎安貞、大蔵永常、佐藤信淵
「三王外記」の作者と内容を説明せよ	●太宰春台●綱吉から家継までの治世の歴史書。
「本朝通鑑」の作者と内容を説明せよ	●林羅山。林鶯峰●神武から後陽成天皇まで編年体による史書であり、実証主義的な歴史叙述をめざした
「後鑑」の内容を説明せよ	●江戸幕府による、室町幕府の通史であり史料を交えながら説明したもの●「本朝通鑑」「徳川実記」などとともに江戸幕府の代表的な修史事業
「徳川実記」の内容を説明せよ	●江戸幕府が編集した徳川家の歴史書で林述斎の監修のもと、家康を除いては典拠に基づく叙述
「都鄙問答」の内容と作者を説明せよ	●石田梅岩●梅岩の思想が集約されたもので、四民の人的平等を強調し、商業活動の正当性および、そのための商人による商人道の自覚の必要性を訴えた
「和俗童子訓」の著者と内容を説明せよ	●貝原益軒●早期教育の重要性を説いた
「女大学」の内容を説明せよ	●江戸中期以降に普及した女子教訓書であり、貝原益軒の「和俗童子訓」の関係部分を通俗化したもので、家庭内の女子の隷従の道徳を説く
「養生訓」の作者と内容を説明せよ	●貝原益軒●中国の養生書と自分の体験に基づき、精神・肉体両面から日常的健康法を記述したもので、以後の養生書の模範を示した
「慎思録」の作者と内容を説明せよ	●貝原益軒●経義・哲学・道徳・教育に関する見識を朱子学の立場から述べている
「創学校啓」の著者と内容を説明せよ	●荷田春満●国学の学校建設を将軍吉宗に提案したもの
「国意考」の作者とその功績、また国意とは何か簡潔に説明せよ	●賀茂真淵●国学の基礎を築く●儒仏の影響を受けない純粋な日本固有の道のこと
「祝詞考」の作者と内容を説明せよ	●賀茂真淵●「延喜式」の祝詞の研究書であり、祝詞の学問的研究の最初で、古学の見地に立って古代の文章の美しさをたてる
「玉くしげ」の作者を説明し、記されている理論を説明せよ	●本居宣長●大政委任論であり、当時台頭していた尊王論を牽制し、幕府支配の正当性を示すために松平定信らが唱えた。将軍は天皇の委任により政治を行い、将軍はそれを大名に分担させているという考え方で、一度委任した以上は天皇といえども将軍の大政には口出しできないとした
本居宣長の著書をまとめよ	●「源氏物語玉の小櫛」…源氏物語を独自のもののはれ論で評価 ●「古事記伝」…古事記の注釈書で、宣長の国学思想の基礎 ●「宇比山踏」…漢学に対抗して国学の立場からの学問論と研究法を平明に展開 ●「玉くしげ」…上記 ●「秘本玉くしげ」…古道による政治論。時弊を具体的に指摘し、為政者の心構えを説く。内容が現実政治にかかわるため、宣長は生前、本書の刊行を許さなかった ●「玉勝間」…随想集であり、復古思想・文学・有職故実などに触れる

「出定後語」の作者を答え、その内容を説明	●富永仲基●仏教の經典は釈迦が説いたそのものではなく、のちの思想発達の中で付加されて成したという「加上説」を説き、大乘仏教は後世につくられたものであると断じた
「華夷通商考」の作者と内容を説明せよ	●西川如見●長崎で見聞した海外事情・通商関係を記述したもので、地域は朝鮮・中国・台湾・南洋・インド・西洋などに及ぶ
「町人叢」の作者と内容を説明せよ	●西川如見●町人としての心得を学問、道徳、職業、処世などに分け個条書にしたもの。封建的身分制を肯定したうえで武士と異なる町人独自の生き方を主張
「采覧異言」の作者と内容を説明せよ	●新井白石●世界地理書で、シドッチの尋問による知識と中国地理書を参照して、世界の地理・風俗を記し、吉宗に献上された
「西洋紀聞」の作者と内容を説明せよ	●新井白石●西洋研究書で、シドッチの尋問で得た西洋の地理・風俗などを記録した。秘本で、幕府内の関係者しか閲覧できなかった
「折たく柴の記」の作者と内容を説明せよ	●新井白石●新井白石の自叙伝で、父祖のことから始め、將軍徳川家宣(いへのぶ)を補佐した事績など
「古史通」の作者と内容	●新井白石●『日本書紀』の神話を史実によって考証しようとした史論書
「藩翰譜」の作者と内容	●新井白石●江戸時代中期に成立した歴史書で、大名家についてその始封、襲封、廃除などを記した
「読史余論」の作者と内容を、歴史観を明確にして説明せよ	●新井白石●江戸幕府の権威上昇をはかった正徳の政治を行っている間に書かれたもので、歴史を段階に区分してとらえ、独自の 九変五変論 を展開しながら公家政権から武家政権への変化の過程をたどり、江戸幕府の正当性を主張
「蘭学階梯」の著者と内容および彼の行った行事を説明せよ	●大槻玄沢●上巻に日蘭通商と蘭学勃興の歴史を述べ、下巻にオランダ文法の初歩を説いた。玄沢は江戸に 芝蘭堂 を開いて多くの門人を育て、芝蘭堂では毎年太陽暦の1月1日にあたる日に新年を祝う オランダ正月(新元会) が開かれた
「民間省要」の作者と内容を説明せよ	●田中丘隅● 川崎宿の名主 であった著者が、農政の沿革、民間の実情、および役人の横暴を批判し武士階級だけではなく民間有為の者の登用をするなど民政に対する批判的意見を記した農政書で、後に 徳川吉宗 に献上され、享保の改革に採用された
「政談」の著者と内容を説明せよ	●荻生徂徠●幕政の危機について幕府要人の諮問に答える形式で幕藩体制内の具体的諸問題に即して、 経済論・政治論 を展開し、参勤交代の弊害の打破や、 武士土着論 を説いた
「牧民金鑑」の内容を説明せよ	●江戸時代農政に関する法令集で農政の実情を知るための好資料
「武家事紀」の作者と内容を説明せよ	●山鹿素行●武家政治の由来・武家の儀礼や戦術などを集大成したもの。武家政治の出現の必然性を説き、儒学者としての史論を展開
「三王外記」の著者と内容を説明せよ	●太宰春台●徳川綱吉から家継までの治世の歴史書
「赤蝦夷風説考」の作者と内容を説明せよ	●工藤平助●蝦夷地の現状を述べ、その開発と対露貿易を論じ、田沼意次に献上

「独考」の作者と内容を説明せよ	●只野真葛●海防問題などにも触れて書いた経世論
「世事見聞録」の作者と内容を説明せよ	●武陽隠士●徳川の治世が次第に本を失い奢侈を増長する方向に流れたことを、当時の武士、農民、寺社などあらゆる職業、風俗、生産などの見聞を通じ、儒教的見地に立って論評
松平定信の著書3つを簡潔に説明せよ	●自叙伝である「宇下人言」。随筆である「花月草紙」。古い書画や器物を模写させた「集古十種」
「考義録」の内容と意義を簡潔に説明せよ	●寛政の三博士らを中心に編纂され、全国の善行者の表彰事例を編集した書で、寛政の改革の民衆教化策として生き方の模範を示した
「海国兵談」の作者と内容を説明せよ	●林子平●ロシアの南下を警告し、いち早く江戸湾防備の必要性を提唱するなど海防の急務を説いた
「三国通覧図説」の著者と内容を説明せよ	●林子平●日本を中心に、朝鮮・琉球・蝦夷地 3 国を図示して解説した。しかし、発禁となった
「草茅危言」の作者と内容を説明せよ	●中井竹山●松平定信の諮問を受け、政治・経済・社会などの時事問題につき答申した意見書。参勤交代や世襲的俸禄制度の批判、貨幣鑄造の提言など、合理主義的見解が述べられ、寛政の改革に影響を与えた
「本学拳要」の著者と内容を説明せよ	●大國隆正●日本の神道が儒学・仏教よりも優れており、日本が全世界の中心となり、天皇が世界を支配する王となるべきことを説いて、水戸の斉昭に献上
「新真公法論」の著者と内容を説明せよ	●大國隆正●幕末に流布したグロチウスの「万国公法」を批判し、日本が世界の中心となるべき国であることを説いた
「曆象新書」の作者と内容	●志筑忠雄●地動説を日本に紹介した初期の文献の一つで、彼の星雲に関する独創的見解を述べた部分もあり、科学史上画期的な書
「偽紫田舎源氏」の作者と内容を説明せよ	●柳亭種彦●「源氏物語」を借り、室町時代に時を移して幕府大奥の実情を写した
「公余探勝図」の作者と内容	●谷文晁●松平定信の伊豆・相模の巡視に随行して描いたもの
「庭訓往来」の内容を説明せよ	●貴族的教養を排した庶民用の初等教科書●手紙文を配列しているが、文例集ではなく、日常生活に必要な多くの用語を示し、それが意味する社会事象を教えるのが目的
海保青陵、本多利明、佐藤信淵の主張と著作を説明せよ	●海保青陵…「稽古談」を著し、藩財政の立て直しには消極的な儉約政策ではなく発展してきた商品経済に対応した藩営専売などを積極的に行うべきであると主張 ●本多利明…「西域物語」「経世秘策」などで属島・蝦夷地の開発と西洋諸国との交易による富国策を論じた ●佐藤信淵…「農政本論」「経済要録」「宇内混同秘策」などを書き、農政改革、産業の振興、流通の国家的統制、海外への進出などを説いた
「慎機論」の作者と内容を説明せよ	●渡辺華山●モリソン号事件の無謀さを外国事業の紹介から説く。未定稿で人には読まれなかった
「戊戌夢物語」の作者と内容を説明せよ	●高野長英。モリソン号打払いの無謀さを夢の中で知識人の討議を聞く形で批判
「夢の代」の作者を答え、その内容を説明せよ	●山片蟠桃●合理的態度で儒仏国学を批判し、天文・地理で地動説を主張し、また

	物価・貨幣制度を論じて自由経済政策を説いた
「戊戌封事」の作者と内容	●徳川斉昭●天保の飢饉や大塩の乱、モリソン号事件など内憂外患の状況が深まるのを見て、三家の立場から海防策の即時実行などの幕政改革を要求し、家慶に提出
「通航一覧」の内容を説明せよ	●江戸時代の外交関係史料集。琉球、朝鮮、中国をはじめ、東南アジア、欧米諸国の国号の起源、統治者の世系、日本との交通など
「航海遠略策」の著者と内容を説明し、彼の動向についても簡潔に触れよ	●長井雅楽●外国人排斥である小攘夷や、幕府が諸外国と締結した不平等条約を破棄させる破約攘夷ではなく、むしろ積極的に広く世界に通商航海して国力を養成し、その上で諸外国と対抗していこうとする「大攘夷」思想に通じる考えを示した。 ●公武合体論者として開国・公武合体を建言して長州藩として採用されたが、尊攘派の台頭により藩論が転換して失脚
「園能池水」の作者と内容を説明せよ	●伴林光平●国学の立場から、日本人の学問に対する姿勢の理想を説く。学問をすることは儒学的な発想であるが、日本人本来の精神を失わずに学問をすることが大切だとする「和魂漢才」の主張
「船中八策」の起草者と内容を説明せよ	●坂本竜馬●朝廷への政権奉還、二院制議会の設置、外国との不平等条約の改定、憲法の制定、海軍の拡張など8か条からなり、大政奉還、明治政府の五箇条の御誓文となって引き継がれた
「百学連環」の作者と内容を説明せよ	●西周●私塾育英舎で行った講義の内容をまとめたもので、西洋の知識を基礎として、独自の学問組織論を展開
「泰西国法論」の出版者と内容を説明せよ	●津田真道。オランダの憲法学者フィセリングの講義の邦訳であり、日本で最初の近代法学書
「徳川禁令考」の内容を説明	●大木喬任の命で司法省が編纂した江戸幕府の法令集●後聚は特に『公事方御定書』成立に関する史料として重要
「猷芹詹語」の作者と内容	●矢野玄道。王政復古の直後に、維新の実をあげるには祭政一致と神祇の復興が急務として建言した。政治体制の細部にわたっており、上皇の否定など皇統の一本化の重要性も主張
「团团珍聞」の創刊主宰者と内容を説明せよ	●野村文夫●政治漫画と戯文で明治藩閥政府を風刺し、自由民権思想の鼓吹に努めたが、しばしば発売禁止や発行停止の弾圧を受けた
「富岡日記」の作者と内容	
「最暗黒の東京」の作者と内容	●松原岩五郎●明治中期の東京の下層民の様子を貧民窟などの現状からルポルタージュした
「琵琶伝」の作者と内容	●泉鏡花●日清戦争直後の軍国的風潮のもたらす悲劇を描いた
「不如帰」の作者と内容	●徳富蘆花●封建的家族制度の中の悲劇を扱った家庭小説
「自由党を祭る文」の発表者名と内容	●幸徳秋水●自由党の後身憲政党が藩閥と妥協して立憲政友会を結党したことに対する批判
「廿世紀之怪物帝国主義」の作者と内容	●幸徳秋水●日清戦争後のナショナリズムの高まりに抗して、帝国主義の本質を「愛

	<p>国心を経(たていと)とし軍国主義を緯(よこいと)とす」と鋭く指摘し、近代帝国主義を論じた先駆的著作</p>
「社会主義神髓」の作者と内容	<p>●幸徳秋水●社会主義の啓蒙期において社会主義理論の最高水準を示したもので、矛盾をはらむ資本主義社会の解体にいたる過程を展望</p>
「あゝ野麦峠」(1968年)の作者と内容	<p>●山本茂実●工女や「女工哀史」を生み出した農村と工場の実態、さらに原料繭を買いたたき、工女を搾取した資本家の姿を描き出した。</p>
「日本之下層社会」(1899年)の作者と内容	<p>●横山源之助●日本資本主義の急激な発達期を支えた労働者層の実態を、自らその中にはいて資料を集め、賃金形態、労働時間、女子・幼年労働者の問題などの面から実証的に指摘</p>
農商務省による調査報告(1903年)の名称	<p>●「職工事情」●産業革命が進展する状況下の労働者の実態を調査した報告書</p>
「興業意見」(1884年)の編纂者名と内容	<p>●前田正名●農工商業の実情調査報告と停滞の原因、将来の振興策を述べた意見書●外国の制度文物の輸入よりも在来産業の保護・整備が富国策と主張、松方財政に批判的</p>
「女工哀史」(1925年)の作者と内容	<p>●細井和喜蔵●軽工業の発達によって独占資本主義を形成確立した日本資本主義の裏側における綿糸紡績工場の女子労働者のきわめて悲惨な実態を描いた</p>
福沢諭吉の著書5つ	<p>●「西洋事情」●「学問のすゝめ」●「文明論之概略」●「福翁自伝」●「世界国尽」</p>
「文明論之概略」の内容	<p>●西洋文明の精神を学ぶべき必要性などを論じ、最後に日本の独立についての考えを展開</p>
「西国立志編」の作者と内容	<p>●中村正直●西洋の歴史上の人物数百人の成功談を述べ、個人主義的徳徳を説く。明治初期の青年に大きな影響を与えた</p>
「三酔人経綸問答」の作者と内容と登場人物3人	<p>●中江兆民●民権運動の挫折と明治憲法の制定目前において、3人の男が酒を酌み交わして日本の進路を議論●民主主義者「洋学紳士」、侵略主義者「豪傑君」、現実主義者「南海先生」(対外的には平和外交と防衛本位の国民軍構想を、国内的には天皇によって恩恵的に与えられた「恩賜的民権」を人々が自ら勝ち取る「回復的民権」へ育成し、「立憲制」から「民主制」への漸進的改革を主張)</p>
「蹇蹇録」の作者と内容	<p>●陸奥宗光●戦争の発端から講和会議、三国干渉に至るまでの外交の推移を記述したもの</p>
田口卯吉の書を2つ挙げ、その内容を説明	<p>●「日本開化小史」…古代～廃藩置県までを発展的に叙述した歴史書</p> <p>●「東京経済雑誌」…自由貿易主義を掲げ、政府の保護貿易的な経済・外交政策を批判し、政策提言</p>
「時代閉塞の現状」の作者と内容	<p>●石川啄木●自然主義を批判し、時代の行き詰まりを告発し、国家権力を批判</p>
「邪宗門」の作者と内容	<p>●北原白秋●異国情緒と官能美の象徴詩風を創造する</p>
戦前の2つの代表的総合雑誌と総合雑誌の性格と役割	<p>●「改造」(山本実彦の改造社が創刊)、「中央公論」●政治・経済・文化など広い分野について小説や随筆から論文・評論までを合わせて掲載する雑誌のことで、政治・社会思想を広め、大正デモクラシーの風潮を浸透させた</p> <p>※改造社→「死線を越えて」現代日本文学全集</p>
時代小説と歴史小説の違いを説明せよ	<p>●歴史小説は忠実に基づくが、時代小説は人物設定などが自由</p>

	時代小説⇒中里介山「大菩薩峠」、白井喬二、直木三十五、古川英治「宮本武蔵」、 江戸川乱歩「怪人二十面相」(探偵小説)、大佛次郎「鞍馬天狗」、吉屋信子
戦前の主な婦人雑誌を説明せよ	●19世紀末の「女学雑誌」、1900年代には女子教育の普及に伴い「家庭之友(のち婦人友)のほかに、娯楽性を交えた読み物としての博文館の「女学雑誌」、実業之日本社の「婦人世界」などが代表的。知識人女性を対象に婦人問題を多く取り上げ、オピニオンリーダーの役割を果たした「婦人公論」(女権拡張を旨とする女性教養誌として出発、しばしば母性保護論争など、女性の生き方をめぐる論争の舞台に)や、家庭生活の実用記事を中心とした編集で主婦層に迎えらえた「主婦之友」が創刊
「蟹工船」の作者と内容	●小林多喜二●蟹工船の実態を暴き、低賃金で過酷な強制労働による搾取を受け続けた労働者たちの階級意識の目覚めを描いた日本のプロレタリア文学の代表的作品
1920年代の活字メディアの普及	●「大阪毎日新聞」などが発行部数100万部を超え、大衆雑誌「キング」が多数の読者を獲得し、不況下で円本や岩波文庫などの低価格本が人気を博した
円本が出版された背景と役割、帰結	●関東大震災後の出版界の不況打破のために1926年～1929年頃まで予約売価1冊1円で出版●改造社の「現代日本文学全集」に始まる●大衆社会の到来にともなう読者層の拡大に対応するマス・セールで、文化の普及に大きな役割●企画の重複などから急速に飽きられた
「貧乏物語」(1916)の作者と内容と意義	●河上肇●下層社会の貧困を解決する方法として、富者の奢侈禁止、社会政策の採用と社会主義への移行をあげて大正デモクラシーの理論的支柱になる●後にマルクス主義に基づいて「第二貧乏物語」を出版
「赤い鳥」の主宰者とその歴史的役割	●鈴木三重吉●児童自由詩を芸術的に評価し、児童の書いた詩・画などを掲載し、生活綴方教育運動に影響を与えたことで、学歴社会の中で子供の教育に熱心な新中間層に支持された●文部省の教育統制や画一的な教育方針を批判し、生徒の個性と自主性を尊重する自由教育運動の活発化が背景
「国防の本義と其強化の提唱」=「陸軍パンフレット」の内容	●軍事面だけでなく政治・経済・思想・国民生活など全般にわたる改革を主張
陸軍パンフレットに対して立憲政友会など既成政党が批判した理由	●統帥権の独立には軍部は行政・立法には関与できないという意味もあるにも関わらず、軍部が国家政策について公然と発言したから
転向文学者3人とその著書を記せ	●中野重治の「村の家」、島木健作の「生活の探求」、亀井勝一郎の「日本浪漫派」
戦争文学者2人とその著書を記せ	●火野葦平の「妻と兵隊」、石川達三の「生きてゐる兵隊」
戦時中の漫画を2つとその作者を記せ	●田河水泡の「のらくろ」、島田啓三の「冒険ダン吉」
「文学に現はれたる我が国民思想の研究」の作者と内容	●津田左右吉●貴族文学・武士文学・平民文学の時期区分によって、国民思想と実生活の交渉を文学作品を素材に批判的に考究
戦争記録画の目的とその代表者2人とその作品	●戦意高揚のため(戦時下の近代日本美術史の空白を埋める貴重なものが多い) ●鶴田吾郎の「神兵パレンバンに降下す」、藤田嗣治の「アツツ島玉砕」「血戦ガダルカナル」
「国体の本義」の発行元と内容	●文部省●「記紀」をもとにして国体の尊厳、君臣の大義を説き、日本は天皇中心の家族国家とする運命共同体を唱導

「臣民の道」の発行元と内容	<ul style="list-style-type: none"> ●文部省教学局●古今の古典・勅語から忠君を説いた箇所を引用し、日本国民が天皇の臣下として実践する道を説いた
カストリ雑誌とは	<ul style="list-style-type: none"> ●1946年ごろから数年間にわたって発行された大衆的娯楽読物の俗称●戦中抑圧されていた性の解放が一気に噴出したものといえ、内容のほとんどは性風俗を中心
「美しい暮らしの手帖」＝「暮らしの手帖」の内容	<ul style="list-style-type: none"> ●衣食住の合理化をめざし、自ら市販商品の使用テスト・分析を行い、その結果を掲載するなど特異な編集方針で他社の広告は一切掲載せず
「世界」の目的と歴史的意義	<ul style="list-style-type: none"> ●岩波茂雄が、戦争への反省から、国民の間に批判精神を培う月刊雑誌の必要を痛感して創刊した月刊総合雑誌●国論を二分した講和問題については、平和問題談話会メンバーをはじめ、あげて全面講和論を展開して非常な反響
「展望」の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ●敗戦の悲惨は日本文化の低さと弱さに根ざすという観点から、文化・思想を重視
「思想の科学」の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ●思索と実践の分野に論理実験的方法を用いること
中間小説とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ●ジャーナリズムの発達やマスコミュニケーションの成立により、文学読者層が拡大したことに応じて現れ、純文学と大衆小説の両方の要素を併せ持つ半通俗小説